

青梅市文化財ニュース

第 38 号

平成 3年 1月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel0428-23-6859)

巨石をたずねて

青梅市と日の出町の境、約 10km は日の出山からのハイキングコースとして尾根伝いにほぼ道が整っています。このコース沿いでいくつかの珍しい巨石（岩）があります。今回は、これについてご紹介をいたします。

三ツ沢峠のチャート

日の出山から尾根伝いに東へ進と、三室山手前に「左日の出日・御岳山」「右愛宕神社・二俣尾駅」という表示板があり、長椅子が 5～6 個設けられた峠があります。これが三ツ沢峠です。この所に、長さ 1～3 m の岩が 40 個位集まっている所があります。原始時代に矢じりなどを作ったチャートという石で、大きな岩がその場で簡単に割られたまま残っているような状態です。どのようなことで割れたものか不思議な岩たちです。

◎ まさか峠の大岩

日向和田から大久野へ抜ける道を秩父鎌倉道といいます。この峠を梅ヶ谷峠といい、その手前、1 km の所を西へ沢沿いに登って行くと舗装された道を過ぎ、細い山道を登り切った所が「まさか峠（肝要峠）」です。この峠の 200m 程手前西側に多いわがあります。10m 程に育った檜林の中に、によきと立ち上がった岩は、檜達と同じような姿勢でそそり立っています。岩肌の割れ口も新たに、どのようにしてできたものか、その縦長の大きさを誇示するかのようです。

◎ 二ツ塚峠のこんにやく石

駒木町の寿香寺西側から山に向かって上って行く道が、二ツ塚峠を経由する昔からの五日市道です。採石場を右にしながらこの道を沢沿いに登っていくと、幅 2 m 程の山道が続くなか、右馬引沢、左二ツ塚峠という表示板が木に打ち付けられている交叉点にいたります。ここから馬引沢方面は急な坂道になります。一方、交叉点を左側に行き、橋を渡り、50m 程行った左側に「こんにやく石」といわれる石があります。鬱蒼とした檜林の中に、どこから来たのかという程の大きさで、その場に合わない大石が寝そべっています。角は丸く、いかにも自家製のこんにやくのような感じがします。昔から峠越えをする人々の目に必ず映る石らしく、武蔵名勝図会には「高さ 3 間横 15 間程、大いなる石にして其の色こんにやくに似たる故かく唱ふ」とあります。また、「皇国地誌」では、まっ暗な深夜に藁の茎を刺すと、簡単に刺さるという主旨の説話があたり、「大晦日の夜になると、こんにやくのように軟らかくなって、この岩に棒がとおる」などといわれる話も残っています。

他にも、馬引沢峠の天狗岩などがあり、ハイキングだけではなく、このような項目も含めて尋ねてみるのもおもしろいことと思います。

(文責 鈴木晴也)